

二〇二一年 一橋大本番レベル模試(第二回) 国語

解答・採点基準

全3問 100分 100点満点

問題一 (四〇点)

〈現代文 河野哲也『いつかはみんな野生にもどる―環境の現象学―』

解答

問い一 A 排出物 B 緊密 C 配慮 D 消失 E 奉仕

問い二 自然の共同体の中ではどんな捕食者も同時に被捕食者であること。(三〇字)

問い三 世界と自然を人間化することで、自分の死の意味を同類の共同体にのみ委ねるから。(三八字)

問い四 異種の生物どうしが命の交換を行い、物質とエネルギーとしてその中を流動していくところの、生命の共同体。(五〇字)

採点基準

- ▼ 採点に際しては、必ず解説を参照して、許容される解答を確認すること。
- ▼ 小問ごとに、**加点法・減点法併用**で採点する。0点以下になった場合、その問は0点とする。
- ▼ 「Xという内容(？点)」の項目は、答案全体がどのような文章構成であるかに関わらず、**答案の一部に要素Xが含まれているかどうかを判断する。**
- ▼ 「X1とX2がYという論理関係になっていなければ、**？点減点**」の項目は、**要素X1とX2が両方も揃っている答案だけを判断の対象にする。**つまり、X1とX2のいずれかでも欠けている場合は、Yについての減点はない(Yの欠けによって失点しているので、さらに減点する必要はない)。
- ▼ 各々の採点項目について、**マルかバツかの二択で判断すること。**誤字脱字以外の部分点は原則として認めない。

問い一 (各2点、10点満点)

- A 排出物 B 緊密 C 配慮 D 消失 E 奉仕
- * 部分点なし

問い二 (8点満点)

1. 自然の(生命の)共同体においては、という内容(3点)
*「獵師と獲物の関係において」など、限定的な関係は**不可**。
2. どんな捕食者も同時に被捕食者である、という内容(5点)
*「被食と捕食の関係がいつでも逆転しうる」という表現は、1で「獵師と獲物の関係において」などの限定的な関係も合わせて解答している場合は**不可**。1が正しく書けている解答や1については何も書いていない解答については**減点しない**。

問い三 (10点満点)

1. 世界と自然を人間化する、という内容(6点)
*「世界・自然(・生命)を人間的価値によって捉える」などの表現も可。
2. 自分の死の意味を人間の共同体に託す、という内容(4点)
*「自分の存在を共同体に塗り込める(、共同体からアイデンティティを得る、共同体の評価を得る、共同体の維持に貢献する)ことで消失を避けようとする」などの表現も可。
*「死」「自分の存在の消失」と関係なく、単に「自分の存在を共同体に塗り込める」としている場合は**不可**。
3. 1が原因となって2が生じるという因果関係(1)によって2,1のおかげで2,など)になっていない場合、**3点減点**。
*1と2のどちらかが欠けている場合は減点しない。
* 文末が「〜から」「〜ので」(もしくは、問いのカテゴリーに対応する答え)になっていなければ、**1点減点**。

問い四 (12点満点)

1. 生命(自然)の共同体、という語(4点)
*その他の表現は**不可**。
2. 1において物質とエネルギーが流動していく、という内容(4点)
*「太陽光に始まるエネルギー連鎖」、「食物網」などの表現も可。
3. 1において異種の生物同士が命の交換を行い、結びついている、という内容(4点)

*「結びついている」という表現がなくとも「命を命の交換を行い」などの表現があれば可。反対に、「異種の生物が結びついている」とだけ書いている場合は、不可。

問題二 (三〇点)

〈近代文語文 内村鑑三『基督信徒の慰』〉

解答

問い一 ア 日本人であることを嫌悪させたこと

イ いるはずがないのである

ウ そのような人は少なくない

問い二 義務でなく自然な感情として無条件の郷土愛を抱く人。(二五字)

問い三 国民皆が内発的な愛国心と信仰とを持ってはならず、民意と神意とが一致しないため、真の愛国者が国民に捨てられることが起こる。(六〇字)

採点基準

▼ 採点に際しては、必ず解説を参照して、許容される解答を確認すること。

▼ 小問ごとに、減点法で採点する。0点以下になった場合、その問は0点とする。

問い一

ア(4点満点)

4. 「日本人／たる／を」を「日本人であることを」という意味に訳していなければ、4点減点。

* 「日本人たる」の主語(「自分が」を省略してもよいが、主語を間違えているものは不可。

5. 「嫌悪せしめ」を「嫌悪させ」(使役)という意味に訳していなければ、4点減点。

6. 「し／事」を「…たこと」(過去)という意味に訳していなければ、2点減点。

イ(4点満点)

1. 「ある／べから／ざる」を「いるはずがない、いるわけがない」(当然＋打消)という意味に訳していなけれ

ば、4点減点。

* 「ある」を「ある」と訳しているものも許容する。

2. 「なり」を「…のだ、…のである」(断定)という意味に訳していなければ、2点減点。

* 項目一で減点されていないければ、「なり」を特に訳出していないもの(「いるはずがない」も許容する。

ウ(4点満点)

1. 「其／人／に」を「そのような人が、そのような人は」という意味に訳していなければ、4点減点。

* 「その人が、その人は」は2点減点にとどめる。

* そのような例が、そのような例は「等は許容する。

2. 「乏しから／ず」を「少なくない」という意味に訳していなければ、4点減点。

* 「多い」、「乏しくない」は2点減点にとどめる。

* 「少なくとも」、「少なくとも」等は許容する。

問い二(8点満点)

1. 「義務として愛するのではなく」という内容がなければ、2点減点。

* 努めて愛しようとするのではなく、「愛するべきだと(愛していると)喧伝するのではなく」なども許容する。

* 第一段落の批判の要点を、的確にまとめてあるかを見る。

2. 「自然な感情として愛する」という内容がなければ、2点減点。

* 「自発的に愛する」、「内発的な心情として愛する」、「愛する心を自然と持つ」、「真心から愛する」なども許容する。

* 第二段落で「真情」という鍵語に集約されるところとなる第一段落の主張の要点を、的確にまとめてあるかを見る。

3. 「無条件に愛する」という内容がなければ、2点減点。

* 「理由なく愛する」なども許容する。

* 第二段落、とりわけ「余は米国が日本に勝りて富を有し技芸の盛なるを知る、然れ共余は富と技芸との故を以て余が日本に与へし愛心を米国に与ふる能はざるなり、英国の政治、伊国の美術、独逸の学術、仏蘭

西の法律は余をして日本人たるを嫌悪せしめし事は未だ曾てあらざるなり」の要点を、的確にまとめてあるかを見る。

4. 「郷土を愛する」という内容がなければ、**2点減点**。

*「国土を愛する」、「祖国の山河を愛する」なども許容する。

*第二段落、とりわけ「コトパキシの高きは芙蓉の高きに勝ると雖も後者が余の胸中に喚起する感情の百分の一だも余は前者の為に発する能はざるなり、否な、コトパキシを見て却て芙蓉を思ひ、ミシシピを渡り石狩利根を想ふ、是真情なり」の要点を、的確にまとめてあるかを見る。

5. 「どのような人か」という問いに答える結び方になっていなければ、**1点減点**。

*「…人。」等を許容する。

問い三 (10点満点)

1. 「国民が内発的な愛国心(国を愛する心)と信仰(神を愛する心)とを持たない」という内容がなければ、**2**

点減点。

*「国民の愛国心と信仰心とが内発的でない」という書き方でもよい。

*「内発的な」に代えて「真心からの」「自発的な」などでもよい。

*「内発的な…を持たない」に代えて「自然に…を持つに至らない」などでもよい。

*第一〜第二段落の論旨を踏まえて、第三段落冒頭の「若し愛国も真情なれば真理と真理の神を愛するも亦真情なり」の含意を正確に読み取れているかを見る。

*1は2の理由に当たるが、「…持たないため」などと明示的に2の理由として書かれていなくても不問とする。

2. 「愛国心(国を愛する心)と信仰(神を愛する心)とが一致しない」または「民意と神意とが一致しない」と

いう内容がなければ、**4点減点**。

*「一致しない」に代えて「矛盾する」などでもよい。

*第三段落の「而して完全なる社会に於ては二者決して瞞着すべきものにあらず(…)国民挙て神聖なる愛国者となるべきなり。如斯社会に於て人若し国に捨てられしならば即ち神に捨てられしなり、其時こそ実に人民の声は神の声にして」の理路を正確に読み取れているかを見る。これらは「完全なる社会」の記述であるから、それを裏返せば「完全でない社会」の記述となる。

3. 「真の愛国者が国民に捨てられることが起る」という内容がなければ、**4点減点**。

*第四段落の論旨を正確に読み取れているかを見る。

4. 「どのようなことが起るのか」という問いに答える結び方になっていなければ、**1点減点**。

*「…」と。「…」が起る。「…」等を許容する。

問題三 (三〇点)

〈現代文(要約) 伊藤亜紗『手の倫理』〉

解答

信頼は安心と見方によっては相反する。安心は、相手は嘘をつくことで確実に不利益を被ることになるから嘘をつかないだろうという判断に確信が伴うものであり、状況をコントロールできてきている想定と関係している。だが、そこには相手への信頼はない。信頼は、相手のせいで自分がひどい目にあう可能性、つまり社会的不確実性があるときに生じるもので、社会的不確実性があるにもかかわらずという逆説を埋めてくれるのが信頼である。(一九九字)

採点基準

- ▼ 採点に際しては、必ず解説を参照して、許容される解答を確認すること。
- ▼ 小問ごとに、**加点法・減点法併用**で採点する。0点以下になった場合、その問は0点とする。
- ▼ 「Xという内容(？点)」の項目は、答案全体がどのような文章構成であるかに関わらず、**答案の一部に要素Xが含まれているかどうかを判断する。**
- ▼ 「X1とX2がYという論理関係になっていなければ、**？点減点**」の項目は、**要素X1とX2が両方も揃っている答案だけを判断の対象にする。**つまり、X1とX2のいずれかでも欠けている場合は、Yについての減点はない(Yの欠けによって失点しているので、さらに減点する必要はない)。
- ▼ 各々の採点項目について、**マルかバツかの二択で判断すること。**誤字脱字以外の部分点は原則として認めない。

(30点満点)

1. 信頼と安心は見方によっては相反する、という内容 (5点)
2. 安心は、相手は嘘をつかないだろうという判断に確信が伴う、という内容 (5点)
3. 安心という感情は、状況をコントロールできている想定と関係している、という内容 (5点)
4. 相手が自分を裏切るかもしれないのような社会的不確実性、という内容 (4点)
 - *社会的不確実性という語を、相手のせいで自分がひどい目にあう可能性などと結びつけて説明しているかを判断する。
5. 社会的不確実性がある「にもかかわらず」という逆説、という内容 (3点)
 - *「相手のせいで自分がひどい目にあう可能性を自覚したうえで」という表現も可。
6. 5の逆説を埋めるのが信頼である、という内容 (3点)
7. (安心ではなく) 信頼を主題として要約している (5点)
 - *筆者の主張が信頼にあることが読み手に伝わるように書かれているかを、解答全体の文章表現を見て判断する。例えば、△「信頼と安心は見方によっては相反する」とするのではなく、「信頼は安心と見方によっては相反する」としている△のように「信頼は」として主題を提示する。△だが、そこには相手への信頼はない△のように、対比を強く作ることで後者に力点があることを示す。△安心を優先すると、信頼が失われてしまう△のように直接的に、安心をネガティブに信頼をポジティブに提示する。以上のような、文章表現上の工夫の有無を評価する。